

第4回古賀市補助金審査委員会 議事録（要点筆記）

【会議の名称】 第4回古賀市補助金審査委員会

【日時・場所】 平成26年11月28日(金)14時～17時 市役所第2庁舎大会議室

【主な議題】

1. 開会
2. 会議の公開について
3. 委員長あいさつ
4. プレゼンテーション審査
 - (1) 書類審査通過団体によるプレゼンテーション及び質疑応答
 - ① 「東北記録映画三部作」上映～3.11 語ること・きくこと
古賀子どもの本の交流会
 - ② 科楽しよう！ーサイエンスレンジャーによる科学教室 たけのこ文庫
 - ③ 絵画で古賀市を元気にするプロジェクト 古賀アートフレンズ25
 - ④ 大型紙芝居巡回上演企画 古賀紙芝居サークル「カチカチ会」
 - ⑤ 生活者による地域密着・web連動型フリーペーパー発行事業 古賀すたいる
 - (2) 審査結果取りまとめ、総括
5. 古賀市公募型補助金交付要綱の改正について
6. その他
7. 閉会

【傍聴者数】 11名

【出席委員等の氏名】

委員：宗像優委員長、今村晃章委員、三上伸充委員、村上知子委員、山崎あづさ委員
事務局：財政課長 星野孝一、財政課財政係長 割石直人、
財政係 真崎剛二、吉野真輝

【庶務担当部署名】 総務部 財政課 財政係

【委員に配布した資料の名称】

資料番号	名 称
1	公募型補助金（平成27年度新規申請分）におけるプレゼン審査での質問等
2	プレゼンテーション審査票
3	プレゼンテーション審査票の記入について
4	古賀市公募型補助金交付要綱 改正（案）
5	平成27年度スケジュール（予定）

【会議の内容】

- プレゼンテーション審査

書類審査を通過した5事業のプレゼンテーション審査を行う。

審査の進め方：

プレゼンテーション … 8分

質疑応答 … 7分

質疑については、1次審査（書類審査）で委員より提出された質疑内容を団体に事前通知。質疑応答時に質問を各自読み上げ回答することとしている。

1事業ごとに「古賀市公募型補助金プレゼンテーション審査票」を各委員が記載。事務局が回収し集計。

① 『「東北記録映画三部作」 上映～3.11 語ること・きくこと』

団体名：古賀子どもの本の交流会

【事前質問に対する質疑応答】

（質問1）講師旅費について

（回答）これは宿泊費込み値段となっている。

（質問2）アンケートについて

（回答）別紙のとおり。

（質問3）スケジュールを具体的に教えてほしい

（回答）2月に1回目に向けての会議をする。3月にチラシ作成、印刷、市広報紙、「わ・わ・わ通信」等への掲載依頼を考えている。4月にチラシ配布、ホームページ、FB掲載、古賀すたいる等への掲載依頼を考えている。そして5月に講演会と上映を実施、アンケート集計をして、次の活動に生かしたいと思っている。毎月の会議を開催しているので、検討しながら、事業を実施したいと思っている。10月にチラシ作成、配布、市広報紙「わ・わ・わ通信」等への掲載を依頼。その後、ホームページ、FB掲載、古賀すたいる等へ掲載依頼。12月に2回目の上映をし、アンケート作成・集計を考えている。その後、平成28年2月にチラシ配布、市広報紙「わ・わ・わ通信」等への掲載を依頼し、ホームページ、FB掲載、古賀すたいる等へ掲載依頼。3月に3回目の上映をしたいと思う。

（質問4）平成27年4月に上映5月に講演会は厳しくないか

（回答）平成27年3月に予定していた記録映画上映1回目と平成27年度5月に予定していた講演会を平成27年5月午前講演会 午後記録上映一回目に変更して実施したいと思っている。その代わり参加費は1,000円と考えている。その後の映画のみは500円を考えている。

（質問5）申請内容と事業終了後の展開のつながりが弱いので、わかるように説明してください

（回答）ことばを語ること、ことばを聴くことが生きる力に繋がると思う。家族・地域などのコミュニケーションの広がりになると思う。今後、古賀の民話等を改めて見直し、失われて行く言葉・事柄を残していく再話作業、小澤俊夫昔話大学研究会会員及び研修中の

会員がいますので、勉強していききたいと思う。そして、ストーリーテリング(語り)をしていけるようにして行きたいと思う。

(質問 6) 団体の設立目的や趣旨とこの事業とのつながりについて

(回答) この映画の存在は直方市で行われた平成 25 年度子どもの読書推進ボランティア学習会で知り、小野和子氏本人から伺って観てみたいと思った。その後、春日市のきりん文庫主宰者、徳永明子氏が実行された。それを観た会員から是非とも古賀市での上映会を実現したいと声が上がった。個人でやれる限界もあり、是非とも古賀市の援助を頂きたく申請した。また添田町で実施した平成 26 年度子どもの読書推進ボランティア学習会で小野和子さんがまた公演をしていただいた、そこで福岡県内子どもの読書ボランティアの方も同じ思いをしている事を聞き、期待されていることを感じた。古賀市でも是非実現したい。

【その他質疑応答】

(委員) 宿泊費の件について、1 回の滞在で何泊を予定しているのか。

(団体) 講演会を午前中に企画したので前泊していただく予定で予算を計上。当日に帰宅される予定。

(委員) 小野和子さんをお呼びするのに講師料が 50,000 円と言うことですが、この根拠は。

(団体) 子どもの読書推進ボランティア学習会では 100,000 円を支払っている。上映映画については、先方も是非上映をしてほしいとおっしゃっているので、50,000 円となっている。

(委員) アンケートは参加した人の意見を聞くという事だが、終わってその場で書いて回収する形か。

(団体) そう。

(委員) そこで、みんなに見てもらっただけでなく、自分たちの活動にも生かすことを考えているのか。

(団体) はい。

(委員) 上映映画について、提出された書類には「なみのおと」、「なみのこえ 気仙沼」、「なみのこえ 新地町」、「うたうひと」の 4 点が記載されているが、そのうち 3 回の上映会でどれを上映するのか。

(団体) 「なみのおと」、「なみのこえ」、「うたうひと」。

(委員) 「なみのこえ」は 2 つ記入されているが、どちらか。

(団体) 「うたうひと」は、語り手がナビゲーターしながら、色々と尋ねていくというドキュメンタリー。その他は被災された方の声が入っているもの。

(委員) この映画はどこかの推薦があるのか。

(団体) 推薦は聞いていない。ヨーロッパで反響があり、来年 3 月にはアメリカでも上映されると聞いている。

② 『科学しよう！サイエンスチャレンジャーによる科学教室』

団体名：たけのこ文庫

【事前質問に対する質疑応答】

(質問 1) 講師謝礼について

(回答) 平成 25 年 12 月のゆめ基金に申請した際の謝礼を見てご指摘をいただいていると思う。その時点ではお顔と名前しか知らなかったが、事前打ち合わせで講師の小泉憲司氏にお会いした時にお身体の具合がよくなく、手もおぼつかない状態であった。その時は予算がなかったので、そのままだったが、今回は講師長谷川公久氏の援助が必要だと判断したので謝礼をアップした。

(質問 2) 看板の作製委託について

(回答) 子どもの本の交流会は回数が多く 4 回書いてもらうため、出来るだけ安くと思っている。たけのこ文庫は 1 回のみで大きめのものを書いていただくので、その金額。

(質問 3) 収支計画書の修正について

(回答) 平成 27 年度のみでの計上に修正し提出していただきたいということだったので、別紙をお持ちしている。

(質問 4) 古賀市内の子どもの対象にした場合 30 人規模の集会所での開催は少し狭いのではないか

(回答) 子どもとスタッフで十分と思っている。ただ、これに低学年の保護者の付き添いがある場合は確かに狭いかもしれない。その場合は配慮したいと思う。今回の課題が 3 年生なので対象を 3 年生以上とすることを考えている。それでも狭い場合は、千鳥小チャレンジ・アンビシャス広場の会場である千鳥北区公民館を使用することも考えている。

(質問 5) 団体の設立目的や趣旨とこの事業とのつながりを説明願いたい

(回答) 規約に読み聞かせをすとかしか書いていなかったからのご指摘だと思う。私たちは子ども読書推進のため、赤ちゃんのためのわらべうた、絵本の読み聞かせやストーリーテリングや科学絵本の読み聞かせ、人形劇やペープサートやパネルシアターなどの研修をしている。また小学生以上の「みみずクラブ」では、畑作りし収穫やカレー作り・百人一首・カラム大会そして科学遊びを通して、科学の面白さを堪能している。決してひとりよがりにならないように、子ども時代の感動を仲間と空間と時間を共有する地域づくりのため活動をしていきたいと思っている。そのためにサイレンスチャレンジャーの申請をした。

【その他質疑応答】

(委員) 資料によると登録会員数が子ども 81 名となっているが、この子どもは参加しないのか。

(団体) これは病院区の貸し出し登録の人数。そのため、0 歳から登録されている。この事業の対象は小学生なので小学生に呼びかけを行う。この事業では古賀市内の子どもの対象にしないといけないということなので、古賀市内の対象者に案内する。

(委員) 説明では 30 名とおっしゃっているが、応募の人数を掴んでいるのか。

(団体) チラシ作製の時には募集人数や参加対象学年等を明記する。

(委員) その時に定員がオーバーした場合は、抽選とかになるのか。

(団体) 受付順になると思う。

(委員) 少し事業と離れるが、たけのこ文庫さんは 35 周年。これまでの活動を通じての課題・将来の展望等あれば教えていただきたい。

(団体) スタッフは喜びと感動で満ち溢れていると思う。子どもと一体感の感動を見守ってくれている。ただ、スタッフがなかなか増えない。お話し会などにはたくさんお母さんもきてくれるが、子どもが小さくて手が離せないようだ。後、病院区の子どもが減ってきている。10 年後の展望としては 1 人でも子どもがいれば活動していきたいと思っている。

(委員) 「たけのこ文庫」と「古賀子どもの本の交流会」の違いとは何か。

(団体) 「たけのこ文庫」は病院区の狭い範囲で地域の子供へ活動を行っている。「古賀子どもの本の交流会」はそういう団体が集まって活動をしている。地域性の違い。

③ 『絵画で古賀市を元気にするプロジェクト事業』

団体名：古賀アートフレンズ 25

【事前質問に対する質疑応答】

(質問 1) 収支計画書の修正について

(回答) 今日、差し替えをお持ちした。

(質問 2) 平成 26 年度から平成 27 年度の事業費の増額について

(回答) 1 つ目、表彰式の会場が大会議室からリーパスプラザに変更されていること。これについては子どもの入賞人数が 122 名だが、大会議室ではキャパの関係で代表 20 名を表彰していた。子どもたちみんなを表彰したいという関係から会場を変更した。

図録印刷については、今年度はパンフレットとして計上していた。H27 予算案ではパンフレットではなく図録という形にしたが、入賞者のみなさんの絵を図録にすることで、本人・家族の喜び、おばあちゃんに送るのもう一冊欲しいとかもあり、横のつながりにも貢献できると思う。また、学校関係者からの依頼もあり、そういった事にも貢献できるのではと思う。また友達の絵が載っているからもらって帰ってもいいかと言われたこともあった。来年は自分も頑張ろうと。情緒の安定・共感性の育みや友達の絵を見て自分も頑張ろうという意欲にも繋がると思う。

(質問 3) 学校との事前に調整しているのか

(回答) 調整はしていない。全小学校に募集をかけている。その中に今年度の実績を入れている。

【その他質疑応答】

(委員) 設立年月日を見ると比較的最近設立されたようだが、古賀市のこの補助金以外に他の助成金の申請などしているのか。もしくは今後考えているのか。

(団体) 他に助成金は申請していない。手弁当と協賛金でがんばっている。協賛金につい

ては今回、配布した図録の後ろに添付しているが、個人協賛で 1 口千円、市民・友達等に声をかけ、地道に集めている。

(委員) 事前の質問で、H26 年度から 27 年度にかけて事業費の増加については、1 つは会場を大きくするため、2 つは図録作製が主な理由だったと思うが・・・。

(団体) もう 1 つあった。ホワイト額縁の購入によるもの。移動展の写真を見ていただくとわかる。千鳥苑等に展示する場合、移動で作品を傷めないため、より多く展示しかつ簡単に飾るためにホワイト額縁が一番よいということで購入したい。

(委員) 図録に関してカラーで作製されており、家族や友達に配りたくなる気持ちがわかる。今回、図録の作製費用が 245,000 円、計上されていたと思う。2,400 冊ということだが、第一回はどのくらい作製し、配布されたのか。

(団体) 業者に出すと 17 万円かかるところを、安くするために作品を 1 枚 1 枚写真に撮った。印刷費を徹底的に安い方法で、手作りで作成した。そのため、50 千円で作製した。実際、載せたい作品はまだあったが、協賛金と作業量の関係で折り合いをつけた形になっている。部数は今回 2,000 部を予定している。ただ、金額を増額しているのは、前回手作りだったが印刷屋に依頼し、ページ数を増やすこと。リーパスプラザで表彰式を行うことでより多くの人にみていただきたいことと学校に配りたいため、部数を増やした。

④ 『大型紙芝居巡回上演企画』

団体名：古賀紙芝居サークル「カチカチ会」

【事前質問に対する質疑応答】

(質問 1) 古賀市の課題をどのように解決していきたいのか

(回答) 古賀の中に大根川などがあるが、これをもう少し市民に啓蒙していきたいということと市民の力として市民に啓蒙していければと考えている。

(質問 2) 備品について

(回答) テント、暗幕、三方幕はどうしても必要。それ以外にもアンプ、スピーカー、衣装などが必要。とりあえずテント、暗幕、三方幕が対象外ならば我々の企画は出来ないと思う。

備品のテントを購入することにより、施設使用料に変化はあるのかということだが、これについて変化はない。保管方法については、現在つながりひろばで預かってもらっている。備品が多くなってダメと言われれば、文化協会に相談したり、私の家で保管したりすることを考えている。

【その他質疑応答】

(委員) 審査の時に話が出ていたのはテントが一体どんなものなのかということ。画像にあるようなものか。

(団体) はい。本当は 40 万円ぐらいする色つきのテントが欲しかったが、高いので最低限これがあれば。

(委員) 平成 27 年度の支出 194,000 円を予定しているが、収入の項目には特に何も無い。その辺りの説明を願いたい。

(団体) 収入は会費のみ。後は、謝礼があれば年間 1 万円から 2 万円程度の収入。ボランティアなので、一応断ってはいる。謝礼はあまりあてにはしていない。

(委員) その他、収入を増やす努力・方策を考えているのか。

(団体) 古賀の祭りの時などにバザーをするくらい。収入を得る手立てがない状況。我々のメンバーもまだ働いており、足並みが整わない。

(委員) 昨年は 10 回ほど公演されており、507 名の動員があったようだが、例えば紙芝居を見るのに 1 回 50 円とか徴収するのはどうか。

(団体) ボランティアでしているので、今のところ、お金を取ろうとすると内部でケンカになる。

(委員) 例えば、協賛してくれる企業を探すなどは今までに考えたことはあるか。

(団体) まだまだ 6 作品しかないので、そこまで私たちが言えるのか。ちょっとおこがましい気がする。我々がまだ初めて 2 年なので、伝統が 10 年とか 20 年あればよいが。我々はまだ 2 年で年間 2 作品、3 作品程度しか作成していないので、おこがましい。

(委員) 技術的なことだが、紙芝居の紙自体を防水処理のような雨に強い状態にするということはできないのか。

(団体) そういう方法もあるが、ビニールにしてもお金がかかる。これを作るのにまたお金をかけるというのはちょっと難しい。

(委員) 備品が対象外になった場合、4 万円程度となるが、それでも申請するのか。

(団体) 我々が希望したのは備品も含めて。それが通らなければ、もうわざわざお願いしなくても良いとも考えている。そこまで税金を使ってする必要はないかとも思っている。

⑤ 『生活者による地域密着・Web 連動型フリーペーパー発行事業』

団体名：古賀すたいる

【事前質問に対する質疑応答】

(質問 1) 収支計画書に書かれているガソリン代の件について

(回答) 走行距離 150km×160 円/L、車両が 10km/L 走ると仮定のもと、この事業はより多くの生活者を巻き込んで実施したいと思っている。残り 10 台分ということで 2,400 円×10 台分で 24,000 円としている。

(質問 2) 他の事業者のフリーペーパーとの違いについて

(回答) 古賀すたいるの形をとり、また市民活動の団体、我々も非営利の団体というスタンスを持って、相乗効果のある形にしていきたいと思う。非営利ながら古賀の事業者として法人税などで貢献したいと思う。

(質問 3) 「法人格の取得」と「ソフトウェア利用」の考え方について

(回答) 法人格を取得し、体制を整えてから、ソフトウェアを購入してどうかということ

だが、鶏が先か卵が先かの話のようなもの。今回、公募型補助金でそれが可能であれば、すぐにでもしたいが、この補助金は創業支援の補助金ではないので、資産ではないソフトウェアの利用料を補助してもらいながら、事業を実施し、実行財源を増やして、法人化を図りたい。また、一般社団法人を考えているが、対象外ということだった。審査通過以前に審査に出せない。ただ、ソフトが欲しいために法人格を変更することは考えていない。

(質問4) 一般社団法人になったときのソフトウェアの名義変更等の引継ぎは可能か

(回答) 利用料が月ごとなので、一般社団法人になることを見越して、月単位で契約したい。

(質問5) 目標と効果のところが少し曖昧だということについて

(回答) 期待される効果を具体的な目標と位置付けて、私のように古賀にUターンしてきた人のうち、古賀すたいのWebサイトや紙面を見て、古賀に住みたいという人を増やすことを目標に出来たらと思っている。

【その他質疑応答】

(委員) 自立を目指して事業の拡大を考えていると思うが、今年度、活動の規模はどれくらいか。

(団体) 15~20万円くらい。予算書には5万円くらいと書いているが、その後、色々な方からお気持ちをいただくことがあった。

(委員) 事前質問の回答の中の3つ目の項目について意味を説明してほしい。まず計画作成のプロセスに市民が参加しやすくなるようなお手伝いをするという意味か。で、その中で市民が知りたい情報を収集しながら伝えていく。そのことによって、行政や政策に関する「無関心」を減らすということと、また結果だけではなくいろいろな取り組みまでの準備段階や舞台裏を紹介するということだが、この辺りについてイメージがわかかなかったので、説明していただきたい。

(団体) 例として、今回の公募型補助金についても私たちは情報が出た段階で「こういう形で補助金を使ったらいいのではないか」とか「お金がもらえるから申請したらいいのではないか」ではないというコンセプトを書き、いろいろな人にみてもらっている。その効果はどうかわかりません。より理想的な事を言えば、今日とかも取材とか審査会のプロセス等を知っていただき、古賀市の空間として何が起きているのかというところを知らせ、一人一人が市民としてのプレイヤーとして責任というか自覚をもってもらいたいと思っている。あるいはこれから古賀市に住もうという人もこういうことをやってきた古賀市ということがわかればいいなと思っている。目指したいことは気がついていたらそうやっていたではなく、私たち市民も色々な事を知ろうよと呼びかけをしていきたいと思っている。

(委員) 色々な情報を提供して、多くの方に古賀市制に興味を持ってもらうことで、引いては事業決定プロセスに市民の方も参加しやすくなるのではないかという理解でよろしいか。

(古賀すたい) 今、古賀市の行政直営で出されているものに古賀市HPや広報紙、ツイ

ッターなどがあるが、私たちの強みである Web サイトやフェイスブックなど、市が今使用していないソーシャルメディアなどを持って、行政側だけではできていない部分を補えたらと思っている。

(委員) 情報の発信の担い手が不足しているのではないかという思いがあって設立された趣意書に記入されているが、それは情報自体が不足しているのではないかという思いもあるということではよろしいか。認識としては、まだ市民が自ら古賀市の中で活動していくということに対しての課題を発信するとか、実際に動いていく部分での動きがまだまだ不足しているという認識でよろしいか。

(団体) 今回、補助事業として採択されたら、補助金もちろん有効に活用させていただくが、色々取材に行ったときに古賀すたいですと取材する場合ではなく、古賀市の補助事業の一環で取材したいという言い回し、そういう応援をしていただいただけですごく効果があると思っている。ソフトウェアは月額で見たら使用しない月もあると思うので、その分はお返すことになると思うが、古賀すたいとしては補助金もさることながら、それ以上に補助事業として古賀市の取組の中に入れてもらうこと自体にすごく価値を感じている。

○ 総括

(事務局)

① 『「東北記録映画三部作」 上映～3.11 語ること・きくこと』

団体名：古賀子どもの本の交流会

得点：14.6 点、

主な意見：熱意が見られる

② 『科学しよう！サイエンスチャレンジャーによる科学教室』

団体名：たけのこ文庫

得点：13.4 点

主な意見：今後も継続した取り組みを期待しています

30名の参加であれば、受付順で決定してはどうでしょうか

③ 『絵画で古賀市を元気にするプロジェクト事業』

団体名：古賀アートフレンズ 25

得点：14.4 点

④ 『大型紙芝居巡回上演企画』

団体名：古賀紙芝居サークル「カチカチ会」

得点：13 点

主な意見：収入増に向けた自立的な取り組みを工夫された方がいい

収入を検討したほうがいいのではないか

⑤ 『生活者による地域密着・Web 連動型フリーペーパー発行事業』

団体名：古賀すたいる

得点：14.2点

どれも平均が12点を下回るものではなく、項目の平均も2点を下回るものもなし。

(委員) この結果について何かあれば。

(委員) カチカチ会は申請どおりになるのか。

(事務局) 備品は対象外なので、備品を除いた金額で内示を出すことになる。後はカチカチ会が交付申請されるかどうか。

(委員) 了解。

(事務局) そのことに関連して、古賀市の補助金は初めから備品は対象外だが、民間の補助金などで備品を補助金対象にしているところはあるのか。

(委員) あるのはある。そういう民間助成金があるのも事実。

(委員) 備品は他のことにも利用できるもので、だめとしているのではないか。短期的に消費されるものであれば、その事業のために使うといえるが。

(委員) 一般的にはない場合が多い。備品だけが対象という所もある。委員の言ったとおり、終わった後どうするのかという問題があり、活動を応援するというのであれば、備品は対象外で良いと思う。

(委員) そうすると、カチカチ会は194,000円で申請をしているが、備品を除くと40,500円が補助対象か。

(事務局) はい。

(委員) 今回の補助金の総額が100万円だったが。

(事務局) 合計額826,000円となるので、すべて採択となる。

(委員) コメントが無いところは、そのまま良いか。

(事務局) 基本的に意見が無いところには意見をつけるつもりはない。特に何か意見をつけたほうが良いということがあれば、今、伺う。

(委員) つけなくて良いなら、別に良い。

(事務局) 団体には平均点を伝える。それを見て、委員会の思いを理解して活動していただければよいと思う。

○ 古賀市公募型補助金交付要綱の改正について

(事務局) 資料4を使って説明する。昨年度から公募型補助金の審査をさせていただいているが、補助終了後の姿というものに重きを置いて審査をさせていただいている。しかしながら、公募型補助金の交付要綱に「自立」という言葉はうたわれておらず、審査要領の審査項目の1つとして、「自立」と言う言葉が出てきている状況。実際には3年後も続けていく事業をと審査されている状況なので、交付要綱の目的に「自立」という言葉をうたった方

が公募型補助金の目的がはっきりするのではと思います、このような改正の提案をさせていただいた。

(委員)「自立」という言葉を入れるのは良いと思うが、「市民の自立した」という形になっているので、分けた方が良いと思う。「市民の自発的な活動及び団体の自立的活動を推進活性化する」はどうか。あくまで市民の自発的な活動はボランティア、社会参加の部分を指していて、それはそれで重要なところだと思うし、対団体にも自立を念頭におくと分けて書いたほうが良いのではないか。

(委員)「市民の自発的な活動の推進・活性化及び団体の自立促進することを目的とする」というのはどうか。

(委員)色々意見が出たので、ご指摘の主旨を踏まえて、事務局で検討してほしい。要綱の改正はいつからか。

(事務局)次回、来年度の募集か審査から。

(委員)では、改正については事務局に付託することよろしいか。

○ その他

(事務局)来年度のスケジュールについて。来年度は今年度にプラスして今年度実施している事業の評価が加わる。平成 25 年度の採択事業が 15 件あり、それらの事業から実績報告書などの提出があるので、評価を行っていただく。その後、10月に平成 27年に新規募集するかわからないが、平成 28年度事業の書類審査として平成 25年度に採択事業のうち 12事業に平成 26年度で採択した事業、それに平成 27年度に新規応募があれば、それを加えたものの書類審査が必要になる。おそらく 2 回ぐらいに分けて行うことになる。それから 12月に新規応募事業があればプレゼン審査と複数年採択事業であっても書類審査の際にやはりプレゼンが必要だということになれば、その分をプラスで実施する。また、新年度に入ってから早々にスケジュールを調整させていただきたい。

(委員)以上をもって第 4 回補助金審査会を終了する。

以 上